

国語科（C読むこと）の研究について

真田 武知

国語科（C読むこと）が目指す「子供が学びをつくる姿」

詳しくは目指す子供の姿シートへ

これまでの2年間の研究を生かし、今年度、国語科では「子供が学びをつくる」姿を下記のように設定しました。また、この姿を実現するための支援を整理しました。

【課題設定】

子供の姿 日常生活の中で様々な文章に出合ったときに、言葉と言葉のつながりや、文と文のつながり等に注目して読み、文章のおもしろさや表現のおもしろさを感じながら、課題を設定する。

支援 目的意識と相手意識を明確にしたり、言葉と言葉、文と文のつながりに注目したりするように促したり、興味や疑問を基に課題を設定したりする。

【課題追究】

子供の姿 課題追究の際に、追究方略や追究形態を選択する。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりする。そして、課題追究過程で、追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりする。

支援 追究方略や追究形態を選択できるようにしたり、他者との対話を通して考えを広げたり深めたりできるようにする。また、選択した追究方略や追究形態を振り返ったり、再選択したりするよう促す。

【パフォーマンス】

子供の姿 追究結果を、目的意識や相手意識を明確にして、身に付けた国語（読む・書く・話す・聞く）の知識や技能を生かして表現する。また、聞き手や読み手からの評価を受けて、表現を修正したり、次の表現に生かしたりする。

支援 子供が追究結果を表現することができるようにしたり、身に付けた国語の力を生かしたりすることができるように促す。

これまでの研究を通して、子供が自己をメタ認知する支援によって、子供たちが高いモチベーションを維持し、活動を調整したり目的に応じて選択したりして、主体的に学び続けることが明らかになりました。今年度は、子供が「対象への思いや願い」、「学習方法や取組方」、「自分自身への気付き」に能動的に関与し、調整していく「自己調整」に整理・焦点化して、研究を進めてきました。

国語科（C読むこと）の研究実践における子供の「自己調整」

詳しくは実践指導案へ

国語科（C読むこと）の研究実践「物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合おう～わすれられないおくりもの～」では、子供の「自己調整」の姿を下記のように構想し、授業実践に取り組みました。

	対象への思いや願い	学習方法や取組方	自分自身への気付き
自己調整の姿 研究実践における	教材への思い 教材はどのような物語なのか、中心人物はどのような人物なのか等に興味・関心を持ち、物語を読む目的を共有する。	表現に向けて 学習課題を解決するために、物語の叙述に注目し、一人で考えたり、友達と考えを交流したりする。	思いや考えの変化、自分への気付き 課題の達成状況を振り返りながら、達成状況に応じて、課題追究の方法（読む視点）を修正したり、次の課題を見つけたりする。
	・わすれられないおくりものって、どんなものだろう？ ・アナグマはどんな人物だろう？	・次は、モグラの心情の変化について読んでみたい！ ・友達の考えを聞いてみたい！	・課題について、まだ十分に理解できていないから、もう少し読みたいな！ ・課題について、わかってきた！

国語科「物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合おう」研究実践について

本研究実践においては、児童が「文学的文章の読み取り方に関する指導事項」を確実に身に付けることができる

ように、指導事項を一覧に整理した掲示物(図1「物語文のないようを読み取るコツ」)を活用しました。

また、1単位時間の学習状況を振り返りながら、自分の学習状況を自己調整することができるようにするために「ふりかえりシート」(図2)を活用しました。児童は、自分の学習の足跡を見直しながら自己調整し、学びをつくっていきました。

図1 「物語文のないようを読み取るコツ」

子供の姿から

右図は、児童が記入した「ふりかえりシート」です。「ふりかえりシート」には、1単位時間ごとに、自分が理解できたことについて記入されています。第7時には「最初は、わすれられないおくりものは、手紙だと思っていたけれど、知恵や工夫だということがわかった。」と記入されていて、学習を通して自分の読み取りが変化したことを実感できていることがわかります。

ある児童の「ふりかえりシート」には、「6場面のモグラ以外の登場人物の気持ちは、どうだったのだろう？」と、自分なりに課題を発見している記述も見られました。

また、ある児童の「ふりかえりシート」には、「場面の変化について読み取ることで、登場人物の心情の変化について読み取ることができた。」と記述されており、本時を通して、児童が文学的文章を読み取る視点を獲得したことがわかりました。

図2 児童が記入した「ふりかえりシート」

研究から見えたこと

本研究実践を通して、児童が明確に学習の目的を理解し、見通しをもって学習することによって、主体的に取り組むことができるということを確認することができました。そして、1単位時間ごとに自分の学習をふり振り返り、「ふりかえりシート」に記録して、学習の足跡を残すことが有効であるということもわかりました。

児童の1単位時間の振り返り(考えたこと、わかったこと、疑問等)を1枚のシートにまとめることにより、児童は自分の学習の足跡を一目で確認することができます。「ふりかえりシート」を見ることで、本単元の学習を通して、「自分は何がわかったのか」「自分の読み取りは、どのように変化したのか」等を確認することができます。本研究実践を通して「ふりかえりシート」の有効性を確認することができました。

本研究実践の課題として、「物語文のないようを読み取るコツ(文学的文章を読み取る視点)」を児童と十分に共有することができなかつた点が挙げられます。例えば、「今日は、このコツを使って読む」ということを1単位時間の導入段階で、全員で確認する等すれば、より読み取る視点を共有することができたのだと思います。

今後は、「文学的文章を読み取る視点」を児童と十分に共有しながら、視点を生かして読み進める学習展開の模索が必要であると思いました。